



1 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転倒します。走っていて足がもつれたり、スクーター、三輪車に乗っていて石や段差で転倒したりします。まだまだ上手に手を出すことができず、顔面からアスファルトやコンクリートに転倒すると重傷な事故になる場合があります。

子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。
足のサイズにあった靴をはいて遊ぶ。

3 いつも子どものいる位置を確認していますか。

ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだり、大人が携帯電話のメールやおしゃべりに夢中になっているわずかなすきに、子どもは思いがけない所に移動します。ソファからジャンプして飛び降りてテーブルにぶつかったり、走って遊んでいてドアや柱にあたったり、危険な遊び方を始めたら、きちんと指導しましょう。

外遊びをするときは、子どもは思いがけない所に移動するので注意する。
子どもの行動をよく観察し、安全に遊べる環境を作る。

5 ベランダや窓のそばに踏み台になるものがありますか。

ベランダや窓の向こう側の景色に子どもは興味津々です。子どもの好奇心をくすぐる場所であるのと併せて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。高い階にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。



ベランダにはビールピンのケース、新聞の束、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かない。子どもがのぞきこめる窓には安全網をつけ、ベッドやソファ、いすやテーブルなど子どもがはい上れる物はそばに置かない。

7 車のドアを閉めるとき、子どもの指を挟まないか確認していますか。

車のドアを閉めるとき、子どもの手があるのに気付かず閉めてしまうと、車のドアは重いので柔らかい子どもの指は重傷な傷を負ってしまいます。車のドアは子どもが開けられないようにドアロックしておき、パワーウィンドウを閉めるときは、窓から顔や手が出ていないか確認してから行う。また、自転車に乗せていて後輪に足を挟む事故も起こっています。

車のドアを閉めるとき、子どもの指を挟まないか確認をする。
ドアやパワーウィンドウはロックしておく。
子どもを自転車に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ドレスガードのついたものを選ぶ。

浴室の床やタイルは滑りにくいですが。

浴室のタイルは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると桶や浴槽、ドアのサンで打撲したり切傷してしまいます。

浴室の床やタイルは滑りにくくしておく。

すべり台やブランコの安全な乗り方を教えていますか。

すべり台で前をすべっている友達を後ろから押したり、ブランコに立ち乗りをしていて転落し、戻ってきたブランコにあたったり。子どもは決まった遊び方では物足りずに無理なことをしようとします。安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、思わぬけがを負ってしまいます。

遊具の安全な遊び方を教える。遊びのルールを決め守らせる。
遊具の周りにガラスやピン、空き缶など危険なものが落ちていないか点検する。

6 おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認していますか。

おもちゃを持って遊具の高い所から飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ちあつたり、綱とびやひもをすべり台やジャングルジムにかけて遊んだり、子どもは大人が思いつかないような遊びを見つけます。子どもの遊んでいるおもちゃや遊具環境、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子どものおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子どもは本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきましょう。

子どもの年齢や能力に合った遊具を選び、遊び方のルールを身につけさせる。

8 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用していますか。

子どもはなかなかじっと座ってられません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、使用しないで車に乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していても、衝突による力は子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。走行中、子どもに車内の装置を触らせないようにするためにもチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかり締めておきましょう。



車に乗せるときは、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり締めておく。
走行中は子どもに車内の装置を触らせないようにする。